

所長の部屋



所長のひとことアドバイス

胃癌を防ぐ

[2016年10月]

日本人に胃癌が多かったのは、過去のことになりつつあります。最近ピロリ菌(正式名はヘリコバクターピロリ)の除菌を受ける人が多くなり、胃癌患者の減少が期待出来るからです。

現在65歳以上の日本人の約8割は、胃の中にピロリ菌がいると言われています。どうも5歳頃までに胃の中に菌が定着するようです。胃の中に菌が入る経路は、井戸水や口移しの食べ物などが疑われています。胃の中にピロリ菌が常在すると、長い年月の間に慢性胃炎が起こり、胃・十二指腸潰瘍や、ついには胃癌が発生しやすくなります。

日本人でも若い世代では胃にピロリ菌がいる率は低く、20歳未満では10%以下のようです。ご自身が慢性胃炎・胃十二指腸潰瘍・胃癌にかかったことのある人、胃に症状のある人は、まず医療機関を受診し、必要な場合は胃カメラ検査を受けて下さい。ご家族(特に母親)がこれらの疾患にかかった人も要注意です。その結果、医師からピロリ菌感染の疑いがあると言われたら、検尿・検便や採血などのピロリ菌検査を受け、菌が陽性ならば除菌治療を受けましょう。除菌は1週間、複数の内服薬を飲むだけです。除菌2ヶ月後に再度ピロリ菌検査を受け、除菌成功ならば以後は通院や治療の必要はありません。他の疾患がなければ、年に1回の胃カメラ検診だけで大丈夫です。

ぜひ胃カメラ検査とピロリ菌検査を受けましょう。